

伝えたい
残したい
わがまちの
誇り



天見地区
Amami

ふるさととの 情景

VOLUME

2

天見地区
(八幡神社の勧請縄かけ)



豊

かな田園風景の広がる天見地区にある八幡神社では毎年1月6日(近年ではそれに近い日曜日)に勧請縄かけが行われます。縄かけの日は、京都の石清水八幡宮から八幡神社に祭神を勧請した日と言われています。一般的に縄かけは、村の境にしめ縄を張り、村内へ災いが侵入することを防ぐために行われますが、八幡神社では神様が渡るためと言われています。

勧請縄かけの日は、朝から親子が共同で縄を綯います。縄は太さ5^匁以上、長さ約70^匁もあるもので、神社前の柿の木と流谷川をはさんだ勧請杉の間に張られます(写真①)。この縄が遅くまで切れなかつた年は豊作になると言われています。



八幡神社

②八幡神社付近の美しい風景 ③3人で力を合わせて縄を綯う様子 ④勧請杉からかけられた縄

※八幡神社は南海天見駅から西へ徒歩で約15分

ふるさととのひと

尾崎光さん

毎年、八幡神社で行っている勧請縄かけは千年近く続いています。流谷・下天見地区の住民がもち米の藁を持ち寄り、約70^匁の縄を共同で綯い、流谷川に張り渡します。この作業は地域の絆が強く、お互いに助けあって生活しているからこそできるもので、私が最も誇りに思うところです。これからもこの伝統行事を後世に引き継いでいきたいと思っています。

